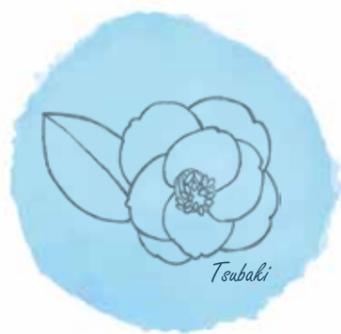


れきしみち

- 2. 特別展「安城ゆかりの大名 家康の名参謀 本多正信」
- 4. 古文書からわかる村のくらし
- 5. 収蔵品紹介
- 6. 安祥文化のさとまつり報告
- 7. 安祥文化のさとではたらく人たち、イベント紹介
- 8. 博物館実習報告、市民ギャラリーよりお知らせ

2017.1
No.103



特集：特別展「安城ゆかりの大名 家康の名参謀 本多正信」

写真中央：本多正信肖像



博物館実習報告

博物館実習生が常設展の展示替えを行いました



博物館実習は、博物館学芸員にとって必要な資質を取得するため、実際に博物館や美術館で実務を学ぶものです。安城市歴史博物館でも、毎年学芸員資格取得を目指す学生を受け入れており、今年度は歴史学や国文学、民俗学を学ぶ6人の大学生が受講しました。

実習は6日間で、その内容は、博物館業務や資料の保存についての講義、歴史資料や考古資料の取り扱いについて、実際に資料に触れながら学ぶ実習など様々です。

こうした日程の中で、最も多くの時間を取るのが常設展示の展示替えです。今回、実習生は3人ずつのチームに分かれ、石川丈山コーナーと新美南吉コーナーの展示替えに挑戦しました。

展示替えの手順は概ね①資料の選定 ②資料の配置を決める ③解説文の作成 ④展示作業の通りです。実習期間には



石川丈山コーナー

親友林羅山が亡くなった際に丈山が書き起こしたものの。亡き友を思う丈山の悲しみが伝わってきます。

石川丈山書「遊観音堂」明暦3年(1657)

新美南吉コーナー

南吉が安城高等女学校の教員時代に同僚2人と学事視察に行った時に書いたものです。



新美南吉画貼「筆勢非凡」昭和14年(1939)

制約があるため、①は博物館で整えておき、実習生は②～④を担当しました。各グループとも、掛軸等壁に掛ける資料と巻物等床に置く資料の兼ね合いをどうするか、資料と資料の間隔はどうか、また丈山や南吉について説明するには、どのような順番で資料を展示したら良いかなど、学芸員からアドバイスを受けながらグループ内で議論をしながら進めていきました。中でも実習生を悩ませたのが、解説文の作成です。100字程度という限られた字数の中で、どのように書けば見る人にその資料の意味を分かりやすく伝えられるか、と随分苦心していました。最終日には展示作業を行い、博物館職員の講評を受けました。そして最後に手直しをし、6日間の実習は無事終了しました。

実習生による展示は平成29年3月末まで見ることができます

歴博ピックアップ!

ボランティアガイド

博物館ボランティアによる常設展のガイドを行っています。解説を聞きながら西三河の歴史を見てみませんか?(※予約不要)



【受付時間】平成29年1/7(土)・28(土)、2/4(土)・25(土)3/4(土)
【時間】10:00～12:00、13:00～15:00

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー郷土作家展「戸田提山 生誕百年記念展」



戸田提山《樹》

大正6年安城市に生まれた戸田提山の書は、多くの人々に力を与えてくれる存在となっています。生誕から百年を迎えた戸田提山の書の軌跡を改めて振り返り、書の持つ魅力を十分にご堪能ください。

【開催期間】平成29年1/28(土)～2/25(土)
【時間】9:00～17:00【休館日】月曜日

安祥文化のさと

安祥文化のさととは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一体の名称です

【全館共通事項】住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)
URL / <http://ansyobunka.jp/> 安城市歴史博物館

安城市歴史博物館	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-6655 FAX: 0566-77-6600
安城市民ギャラリー	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-6853 FAX: 0566-77-4491
安城市埋蔵文化財センター	開館時間 / AM9:00～PM5:00 TEL: 0566-77-4490 FAX: 0566-77-4491
安祥公民館	開館時間 / AM9:00～PM9:00 TEL: 0566-77-5070 FAX: 0566-77-6062
安祥城址公園	TEL: 0566-71-2244



「特別展」安城ゆかりの大名

家康の名参謀

本多正信

1月28日(土)
3月19日(日)

文責：田中里張

安城市歴史博物館では、これまで地元ゆかりの武将や大名を紹介する展覧会を行ってきました。今回は、没後四〇〇年を迎え、優れた行政手腕で初期の江戸幕府を支えた本多正信を取り上げます。

本多正信は、その出生地を小川村（安城市小川町）とする説があり、また、三河一向一揆の際には弟正重とともに門徒側について家康と戦ったほか、その後の三河真宗寺院の復帰に際しては本證寺（安城市野寺町）と交わした文書も伝えられています。

本展では、本多正信の出生、三河一向一揆における動き、復帰後は家康の信頼を得、将軍秀忠の側近となり、幕府の重鎮として外様大名の仲介や外交にも力を振るう様を、正重や息子の正純・政重の動向とともに紹介します。

年から天正十二年の小牧・長久手の戦いを挟み、十四年にかけて行われました。正信は天正十年から十二年にかけて家康の傍に仕え、武田旧臣の松平家臣団への取り込みに関わっていたと考えられます。

またこの頃、三河一向一揆時に追放された本願寺派の寺院の三河復帰にも酒井忠次・石川家成とともに関わっています。三河本願寺派の有力寺院七か寺は天正十三年に還住が許され、寺領及び寺内山林が安堵されますが、これに関連した正信の書状が本證寺に伝えられています。

こうした行政的実績を積み重ね、正信は家康の信頼を得ていったと考えられます。そして、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原合戦では、真田昌幸の籠る上田城を攻める秀忠軍の参謀を任されることになるのです。



本多正信書状(本證寺蔵)

本多家の出自

本多正信は天文七年（一五三八）、三河に生まれたとされます。はじめの名は弥八郎、徳川家康より四歳年長でした。幕府が編纂した『寛永諸家系図伝』によれば、正信の祖は豊後国本多の地の出で、正信の曾祖父の代に三河に居を移し、家康の祖父松平清康に仕えたと記されています。三河の「西城（西条、西尾市）に居住していたと記されています。しかし一八世紀半ばに成立した『三河国』『葉之松』では、「小川村古城の説明として、佐渡守正信と弟の三弥正重はこゝで生まれたと記しており、江戸時代半ばには本多正信が小川村出身という言い伝えがあったようです。

その一方で、正信の二男政重に始まる加賀本多家の系図では、正信を「駿州久米の人」としており、正信の出身地には諸説があります。

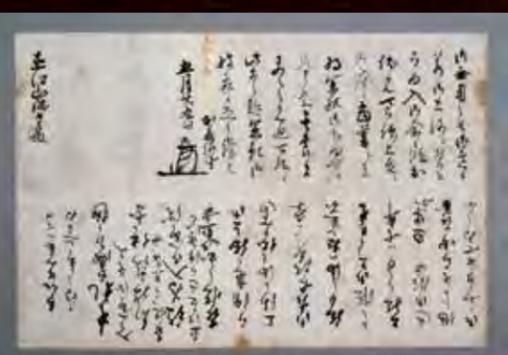


本多系譜(金沢市玉川図書館蔵)

幕府の重鎮

慶長八年、家康が征夷大将軍になり、江戸幕府を開きます。さらに慶長十年に家康は將軍職を秀忠に譲って駿府に移ります。秀吉の政権時代から伏見や大坂に居ることが多かった家康に対し、江戸にあって秀忠を補佐することが多かった正信は、幕府中枢において重要な存在になっていきます。

こうした正信の存在は、諸大名から頼られる存在であったらしく、將軍家や家康との仲介を依頼されることも度々あったようです。幕府や將軍秀忠の意向を伝えたり、諸大名の要望を將軍家に取り次ぐなどの活動を、残された書状からうかがうことができます。また、正信の二男政重は慶長九年、上杉家の重臣直江兼続に娘婿として招かれ、さらに十六年には加賀の前田家に仕えることになり、幕府との交渉に大きな役割を果たします。これは外様大名である上杉家・前田家が幕府の中枢にあった正信とのパイプを作るための政策とも考えられます。



国宝 直江兼続宛本多正信書状(米沢市上杉博物館蔵)

三河退去

永禄六年（一五六三）から七年に起こった三河一向一揆は、家康の危機の一つに数えられますが、正信にとっても人生を大きく変える出来事でした。『三河物語』によれば、正信は「この時、一揆側についた酒井忠尚の上野城・豊田市に籠ったとされています。酒井忠尚は松平家臣団内の実力者でしたが、正信がこの城に籠った理由や一揆の間の正信の行動は明らかではありません。

一向一揆が平定され、正信は弟正重とともに三河を出たとされていますが、その後の足取りも定かではありません。『寛永諸家系図伝』や加賀本多家の家譜では、正信が一向一揆に関わった記述そのものがないことから、本多家が、正信が一揆側についたことを憚って記載しなかったとも考えられます。

一方で『藩翰譜』には「一揆後正信は都へ行き、松永久秀に会ったとされ、「強からず、柔らかならず、又卑しからず、必ずよのつねの人にあらざ」と評されています。また『富樫観知物語』では、「本多作内」という名で加賀一向一揆に加わり、侵攻してきた織田信長配下の柴田勝家勢と戦ったことが記されています。

復帰

正信が家康の下に戻った時期については、元龜元年（一五七〇）の姉川の戦いの頃（寛政重修諸家譜）、天正十年（一五八二）の本能寺の変後（藩翰譜）など諸説があります。

正信が家康の家に復帰したことが確認できるのは、天正十年に家康が武田旧臣に与えた朱印状からです。家康の甲斐・信濃攻略は、天正十

本多家の没落

元和二年（一六一六）に家康が亡くなると、正信はその二ヶ月後、後を追うように亡くなります。正信の長子正純は駿府の家康の側近として、父正信と同様に行政的手腕をもって活躍していましたが、家康の死後は江戸の將軍秀忠に仕えることになりました。

江戸では筆頭家老のように扱われ、元和五年（一六一九）、一五万五千石の宇都宮城主になりますが、そのわずか三年後には改易、寛永十四年（一六三七）に配流先の横手で生涯を閉じます。こうして家康の下で権勢を振るった本多家はわずか二代で没落することになります。

しかし、その行政手腕を家康に信頼され、参謀として権勢を振るった本多正信の名は、天下国家の統治について記した書『本佐録』と結びつき、後世に語り継がれることになりました。



重要文化財 本多正信像(徳本寺蔵)

反逆、流浪

そして家康の名参謀へ

特別展関連行事

●特別展記念講演会

- 「本多正信と加賀本多家」
[日時] 2月5日(日) 14時
- 「講師」本多俊彦氏
(高岡法科大学准教授)
- 「本多家と上杉家」
[日時] 3月11日(土) 14時
- 「講師」阿部哲人氏
(伝国の杜米沢市上杉博物館)

●歴博講座

- 「徳川家康と本多正信・正純父子」
[日時] 1月29日(日) 14時
- 「講師」三島(信本館学芸員)
- 「本多正信と江戸徳本寺」
[日時] 2月25日(土) 14時
- 「講師」田中里張(本館学芸員)



●体験講座

- 「男の茶道〜お抹茶の愉しみ方〜」
[内容] 特別展の開催に合わせ、武士の作法の一つでもあった茶道を学びます。
[日時] 2月4日(土) 13時30分〜15時30分
- 「場所」体験学習室
- 「定員」15名
- 「申込」1月17日(火) 9時より
お電話でお申し込み下さい。
電話・0566・77・6655

●歴博イベント

- 「本多正信があこがれた利休の茶」
[内容] お茶とお菓子を2階体験学習室にて提供します。また、エントランスホールにて茶道具の展示も行います。
[日時] 2月11・12日(土日) 10時〜15時(呈茶のみ)
- 「料金」1,000円
(特別展観覧券付き)



写真はイメージです

第3回 /
古文書から分かる
村の暮らし

村のお仕事

— 村人の身元保証 —

文責：館長 高山 忠士

村々に残された古文書から江戸時代の村の様子をさぐってみようとする読み物の三回目になります。

一回目は村の事件簿、二回目は住民異動届を紹介し、当時の村の様子的一端を知っていただくことができたと思います。今回は、前回に引き続き住民の管理にかかわる文書を紹介します。

差上申御請状之事
 ① 東端村勝右衛門勤多重申者儘成者ニ御座候ニ付其村
 ② 御地頭様御中間御奉公ニ差出申候処私共御請ニ罷立
 ③ 当西極月々来ル戌極月迄御奉公ニ相定メ則
 ④ 御給金三両五分也只今儘ニ受取御年貢上納申候正也
 ⑤ 御公儀御法度之義者不及申ニ総而御家之
 ⑥ 御作法為相背申間敷候右御奉公之内取逃欠落
 ⑦ 仕候ハバ其人急々尋出シ御望次第急度埒明可申候
 ⑧ 此者宗旨之儀者代々西本願寺宗ニ而西端村
 ⑨ 栄願寺且那ニ紛無御座候寺証文之義ハ私共ニ
 ⑩ 取置申候御用次第ニ差上可申候若此者
 ⑪ 御意ニ入末々被召仕候中ハ何ヶ年成共此受状
 ⑫ 御用可被下候為後證依而如件
 ⑬ 東端村人主 勝右衛門
 ⑭ 証人 周蔵
 ⑮ 庄屋 深津甚五左衛門
 ⑯ 根崎村 御役人衆中
 ⑰ 文政八酉年極月



↑翻刻

収蔵品
紹介

100年前の
鳥の絵はがき

←明治42年
(1909)西年の年賀状



当館には、今から百年前の明治30年代から40年代にかけて流行した絵はがき約1万枚を収蔵しています。今回はその中から平成29年の干支の酉(鳥)にかかわる絵はがきを紹介します。

A Happy New Year



鶏の絵「A Happy New Year」にある絵はがきは、東京松声堂発行の年賀状です。下には西暦で「1909 (明治42年)」とあります。この年は今年と同じ西年にあたり、写真では小さく見えてくいのですが、鶏の絵や文字はすべて少し浮き出ていてとてもかわいらしい図柄です。この技法はエンボス加工といえます。今でも十分通用するくらい素敵な年賀状です。郵便制度が開始されたのは明治4年です。同6年に

写真をごらんください。表題は「差上申御請状之事」と書かれています。現代風に言えば、身元保証書、身元引受書とでもいえるでしょうか。差出人は①東端村(現安城市東端町)の勝右衛門さん、②周蔵さん、③甚五左衛門さんの三人です。宛先は④根崎村の御役人さんたちです。差出人の三人のうち、勝右衛門さんが一番の関係者、身元引受人です。周蔵さんはその証人、村の生活の中では、勝右衛門さんの一族の人が、組仲間の人がこうした証人を引き受けていました。甚五左衛門さんは村の庄屋さんです。現在の行政文書であれば、住民票や戸籍謄本の市長さんの名前と印にあたるものです。当時の社会も行政文書はきちんとしていたんですね。

西年の①十二月から②翌年の十二月までの一ヶ年で、③給金は④三両五分、⑤確かに受け取って⑥年貢のかわりに納めました、と書いてあります。よく見ると、金額の三両五分の部分と、受取の部分には印が押してあります。当時も金銭の授受に当たっては、とりわけ書類の改ざんがされないように気が遣われていたことが分かります。この部分の記述内容からは、おそく勝右衛門さんが年貢を納められずに、貴重な労働力である息子さんをかたにお金を受け取り、年貢代わりに納めたことが分かります。さりげない記述の中に年貢を納められなかった時の対処の仕方や、年季奉公の賃金など当時の社会状況が垣間見えます。



次の部分では、奉公に当たって、⑦法令はもちろん、⑧お家のきまりやしきたりにも背きませんと誓約しています。さらに、もし⑨奉公中に失踪しても⑩急いで探し出して事の次第をはっきりさせますとも誓約しています。年季奉公ですから、奉公先に迷惑がかからないようにすることを誓っているわけです。三番目の部分では、多重さ

鳥を
モチーフにした
絵はがき

明治38年(1905)頃



歴史博物館にある文献資料室では、歴史・郷土・民俗関係の書籍や発掘調査報告書など、専門性の高い書籍を多く所蔵しています。今回は、そこで働く図書専門員を紹介します。



貴重な書籍がたくさん収納されています

所蔵する書籍は、別の部屋で保管しているものを含めると5万冊余り。必要に応じて購入しているので、博物館の過去の企画展に関する専門書などは豊富にあります。市内はもちろん、市外・県外からも見学に来られる方もいます。

Q2 文献資料室はどんなところ？

新しい書籍が来たら分類番号、バーコードを付け、タイトルや著者名などの情報をパソコンに打ち込みます。このシステムを使って、利用者の方の書籍探しのお手伝いも行います。文献資料室の書籍は、安城市中央図書館の蔵書検索でも調べることが出来ます。

Q1 図書専門員の仕事って？

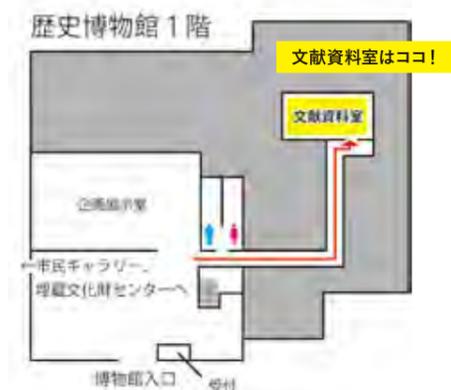
新しい書籍が来たら分類番号、バーコードを付け、タイトルや著者名などの情報をパソコンに打ち込みます。このシステムを使って、利用者の方の書籍探しのお手伝いも行います。文献資料室の書籍は、安城市中央図書館の蔵書検索でも調べることが出来ます。

Q3 文献資料室の利用方法は？

どなたでもご利用が可能です。博物館の受付にお声掛け下さい。
 「利用時間」午前9時～午後5時
 ※書籍の館外貸出は出来ません



安祥文化のさとで
 はたらく
 人たちは
 安城市歴史博物館
 「図書専門員」



ミュージアムショップが
 リニューアル！

博物館のミュージアムショップが新しくなりました。「若沖と京の絵師」会期中は若沖グッズが盛りだくさん！ぜひお立ち寄りください。



スタッフオススメ！
 クリアファイルA4
 (雪中雄鶏図)
 ¥432(税込)



歴博演芸場

三河万歳「新春招福の初舞」

〔内容〕安城の三河万歳保存会が、皇太子様もご覧になった三河万歳を披露します。文字書きからくり人形の書初めも行います。
 〔開催日〕1月8日(日) 14:00～
 〔会場〕エントランスホール
 〔出演〕安城の三河万歳保存会



安城市歴史博物館の1月～3月のイベント

第7回松平シンポジウム

「信長衆ハ加勢、当手コン本陣ナレ -徳川・武田の攻防13年-」

〔内容〕今川氏の滅亡後、13年間にも及ぶ攻防戦が徳川と武田との間で始まります。戦国大名徳川家康にとってどのような時期であったのか、またこの地域の影響について、各専門の研究者を招いて報告、そして討論会を開催します。
 〔開催日〕2月19日(日) 13:00～17:00
 〔会場〕エントランスホール
 〔定員〕180名
 〔コーディネーター〕
 播磨良紀氏
 (中京大学教授)



昨年のシンポジウムの様子

1日目



忍者パフォーマンス！

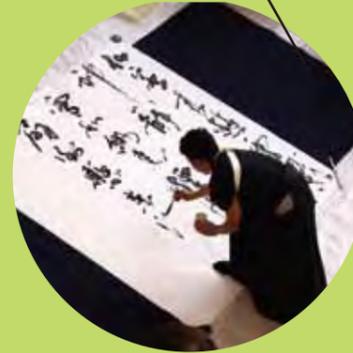
元気なチアリーディング



富くじも行いました！



書道家・山本祐司さんによる書のパフォーマンス



市内小学校・高校の学生による三河万歳の実演



安祥文化のさとまつりが開催され、多くの人で賑わった。安祥文化のさと会場でのまつりの様子をお届けいたそう！



第11回 安祥文化のさとまつり

11.19-20

たくさんのご来場ありがとうございました！

2日目

保存会による伝統芸能「棒の手」の実演



夏休み歴史系自由研究作品展覧会「歴史のひろば展」表彰式



歴史ウォーク みんなでラジオ体操をしてから出発



大迫力の火縄銃演舞

